

Uemura Hiroki

北へ降る

Beyond the Outer Edge

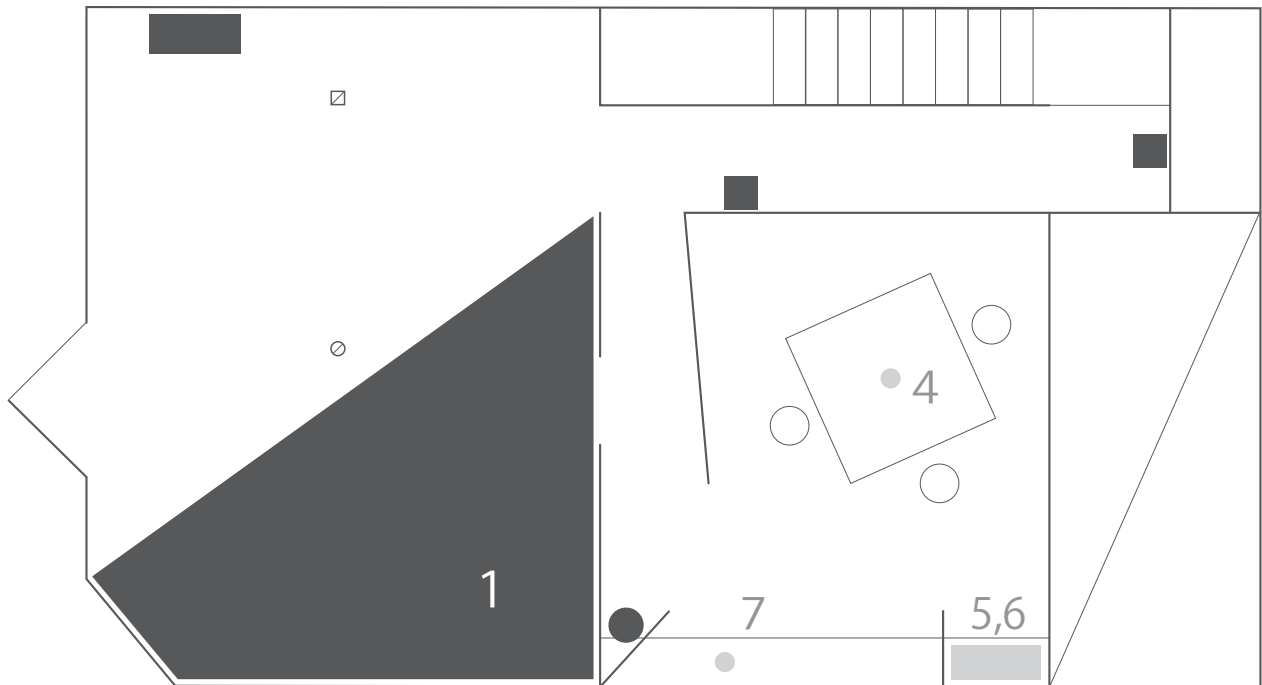
ii

空気と彫刻

i. 地平線と水平線

iii. 内と外

i .



1. 浮遊する地表

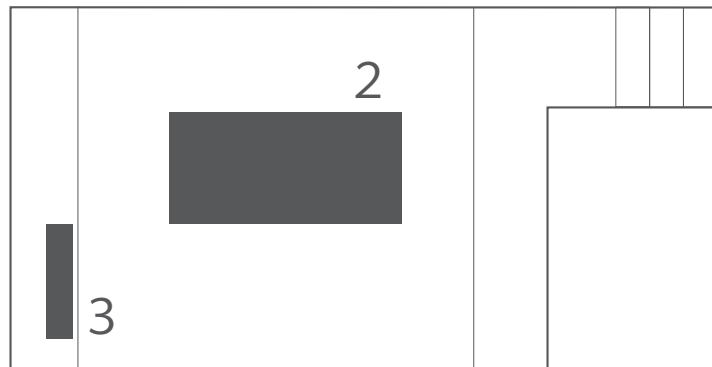
— 陶土、ガラス瓶、方位磁針、湧水（名古屋市内）、海水（伊勢湾）

太古に存在していたとされる東海湖

かつての水平線と地平線とを想像し、
いまこの場所に重ね合わせる

見慣れた空中に、見えない水中が重なり合うように、
足元の確かな不確かさと、その積み重なりに視線を向ける

ii .



2. 空気を彫る - 線

_ ガラス、空気、チョークインク

3. 空気を彫る - 点

_ ガラス、空気、チョークインク

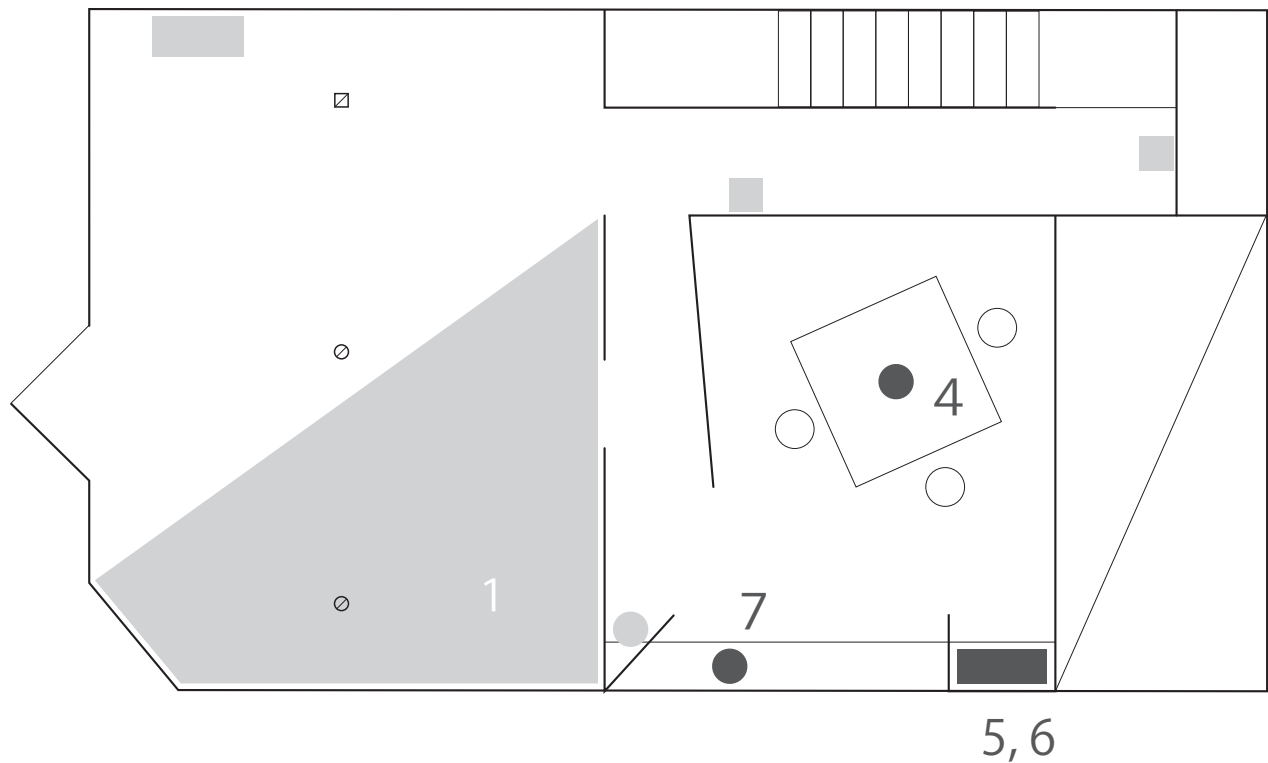
空気を彫刻の素材として捉えてみる

ガラスによって切り取られた空間には、
ケースの容積分の空気が存在している

ガラスに描かれたドローイングというポジティブな行為は、
空気にとってのネガティブな行為へと転換されていく

見えず触れることのできない空気を彫刻していく

iii .



4. 景色を掬う - オヤマ

_ 雄山の空気、杉、銅、ガラス、地図、蜜蝋

5. 心象形

_ ガラス

6. 光のかたち

_ ガラス

7. 北への指針

_ ガラス、方位磁針

方々を歩きながら周りの景色にひそむ“もの”をみる

あらゆる方向へとひろがる意識を俯瞰するように
北を指差す針を眺める